

名古屋市議会3月定例会が開会（3月24日）

議長・副議長選挙で所信表明を実施 わしの恵子・田口一登候補が議会改革を訴え

3月24日から新議員の初議会＝3月議会がはじまりました。議長選挙についての日本共産党の申し入れが実り、本会議の開会まえに議員総会を行い、議長候補3人・副議長候補2人からの所信表明が行われました。今回は初の取り組みで準備や周知が不十分であったた

め、一人3分、傍聴なし、ネット中継で公開することで実施されました。

日本共産党は議長候補にわしの恵子議員、副議長候補に田口一登議員が立ち、議会の民主的改革に挑む決意を述べました。結果は表のとおり。

議長選挙の結果	
中村孝太郎(減)	40票
中川貴元(自)	30票
わしの恵子(共)	5票
副議長選挙の結果	
中田ちづこ(自)	59票
のりたけ勲仁(減)	6票
田口一登(共)	5票
無効	5票

議長選挙にあたっての所信表明 わしの恵子



出直し市議選によって発足した新しい議会は、従来の議会の在り方に対する市民の不信と批判、そして議会新生の願いの現れであり、いわば「リセット」議会だと考えます。議会運営にあたっては、従来の慣習にとらわれず、議会制民主主義の「原点」に立つことが必要です。日本共産党市議団は、新しい市議会のスタートとなる議長・副議長の選出にあたって、これまでの慣習にとらわれず、議会基本条例の精神にのっとり、市民に分かりやすいオープンなやり方に改めること、具体的には、候補者が議会改革や議会運営についての所信を表明し、選挙の際にはその内容を吟味して投票できるようにすべきであると各党派に呼びかけてまいりました。ですから、このように、本会議場にて、議長選挙にあたっての所信表明ができることはまさに、議会改革を1歩進めるものであると考えます。

さて、議長は、二元代表制の一方の議会を代表する存在です。私は、議員としての議会活動が十分保障された議会運営を、かつ民主的で公平・公正な議会運営を目指します。

そこで私は、議会運営・議会改革について、先の市議選での市民の声を十分尊重し、次のような提案を行います。

第1に、市民に開かれた分かりやすい市議会にするため、定例会ごとに市民の声を聞く議会報告会を設け、情報公開と市民参加の促進、市民の多様な意見を把握するなど議会制民主主義の発展に努めます。

議員平等の原則を踏まえ、本会議質問については会派別持ち時間制を廃止します。休日・夜間議会の開催を検討します。議会広報の充実など「議会基本条例」を活かし、さらなる改革を進める決意です。

第2に、議員は市民の痛みに応え、議員報酬は半減し、慣例的な海外視察は廃止します。企業団体献金は自粛すべきと考えます。

以上の議会改革と議員の在り方についての提案をさせていただきます。所信表明といたします。よろしく申し上げます。

副議長選挙にあたっての所信表明 田口一登



一年前に本市会が制定した名古屋市議会基本条例は、議会と市長が相互に独立対等な立場で、緊張関係を保ちながら、市政を運営していくという二元代表制の堅持を明記しています。一部に、二元代表制を否定し、議会のチェック機能を弱め、市長の権限強化を図る動向があるだけに、二元代表制という憲法原則に立脚して、本市会の役割の発揮をめざすことが、私は重要だと考えます。

同時に、先の市会議員選挙での市民の審判は、議会と議員のあり方にたいして大変厳しいものとなりました。議会基本条例にもとづく議会の改革は、まだ緒についたばかりであり、市民の負託にこたえて、「市民のために働く議会」「日本一市民に開かれた議会」をめざし、改革をさらに前進させることが求められています。

そこで、私は、議長を補佐して公正公平な議会運営に努めつつ、次のような改革を進めていきたいと考えています。

第一は、議会経費について適正化と透明化を図ることです。議員報酬は半減し、任期中に1回の慣例的な海外視察は中止します。政務調査費については、使途の説明責任をよりいっそう果たすようにします。

第二は、民主的な議会運営に努めることです。議会基本条例に明記された「議員平等の原則」にのっとり、本会議質問における会派別持ち時間制を廃止します。休日・夜間議会の開催を検討します。

第三は、市民参加の促進と情報公開を徹底することです。定例会後には必ず議会報告会を開催するとともに、必要に応じて市民公聴会を開催するなど、市民意見の反映に努めます。「市会だより」のいっそうの充実を図ります。

第四は、議会の政策立案、調査機能を強化することです。議員からの条例提案の活発化を図るとともに、議員間における政策論議を促します。

以上の点について、議員の皆様の協議の場を設けて取り組んでいくことを表明し、所信といたします。